

# シエムリアップ MoiMoiライフ

ISSUE  
118

「Moi Moi」とはクメール語で「ひとつずつ、ゆっくりと」の意味。恵み豊かなカンボジアでのスローライフをお届けします。



## 小出 陽子 (Yoko KOIDE)

1992年早稲田大学大学院卒。一級建築士。2000年、UNESCO/JSA 遺跡修復オフィス建設のため、カンボジアに赴任。2005年～2020年、シエムリアップにてレストラン Cafe Moi Moi を経営。2005年 JST (NGO: アンコール人材養成支援機構) を設立し、農村地域の支援活動を始める。2013年「アンコールの都の西北」に公立のバイヨン中学校を創設。2019年には高校も併設され、現在、全校生徒1,000人の学校運営を行っている。

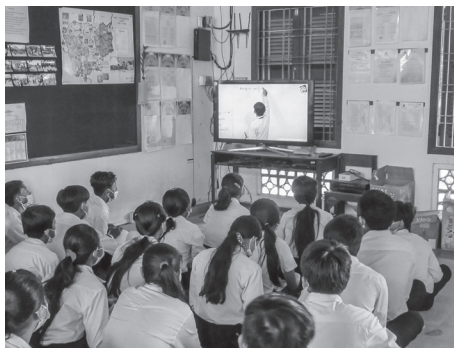
● JST ホームページ  
<http://www.jst-cambodia.net>

## 公立学校の教師不足、 次なる一手へ

2022年3月現在、バイヨン高校・附属中学校は、生徒数964名（コクナ禍で30名ほど退学）、クラス数は20クラスとなりました。しかし、教師数は相変わらず13人のまま。特に理数系の教師が全く足らず、時間割さえまともに組むことができません。

教師不足の主な理由は、教師自身が自宅の近くか都市部の学校で教えたいと希望されるからです。都市部では副業として塾の講師ができますし、保護者も教育熱心で、学校や教師に補助金などが集まりやすく、学校運営も比較的スムーズです。都市部では定員の2倍以上の教師が在籍している学校もあり、農村部との格差はますます開くばかりです。現在、バイヨン高校・附属中学校に在籍している13名の教師のうち、数名の教師はすでに教育局に転勤願いを届けているため、今後も引き続き教師不足は続くこととなります。

一方、生徒数は年々増加しています。近年、小学校での中退は減る傾向にあり



e-learning授業を受ける生徒たち

（これは大変喜ばしいことですが）、中学進学率が高くなるだけでなく、バイヨン高校・附属中学校の評判を聞きつけて、他学区から入学を希望する生徒も増えているからです。来年は全校生徒約1100人、22クラスになるだろうと予測しています。

さて、この事態をどう打開していくか…。教師がいなくても授業ができる体制を早急に整えるしか手はありません。そこで、支援者と呼び掛けて大型TVモニターとパソコンを全教室分揃え、e-learning授業ができる体制を整えているところです。幸い、コクナ禍により都市部ではオンライン学習が普及したこともあり、教え方の上手な教師による授業動画がネット配信されるようになりました。生徒にとっては、教師に直接教えてもらった方が理解できると戸惑いの声も聞かれますが、背に腹は代えられません。e-learningでいかに効果的な学習を行えるか、しばらくは模索が続きます。